

「小池さん、「政策協定書」は○、「候補者選別発言」は×。最終的に何をしたいのか？」

小池さん、注目されています。この短期間でのスピード感、見事です。ただ、今、いくつかの点で批判を浴びる場面も出てきました。

1つ目は、政策協定書を書かせる、つまりリベラル派を排除するような事は小賢しいと言った細川元首相等の意見についてですが、大きな政策が一致している人を公認候補とするのは、当然のことで、民主党、民進党はこういったことをやらなかったから野合と言われ、最終的な支持を得られず分裂したのだと思います。この政策協定書にサインする事を、失礼だとか屈辱だとかいう事で非難する政治家、評論家もいますが、それは筋違いだと私は思います。賛成できないのなら希望の党に入らなければいいだけの話です。ただし、政策的に一致出来る野田元首相、岡田さん等も排除したのは政策というよりも小池さんが主導権をとりずらくなるという理由であるならば、同じ考えの議員をなるべく多く集めなくては政策実行ができずらくなるという観点からいうと私個人はおかしなことだと思います。しかし、小池さんが公認候補者を「選別します」と言ったのは多くの支持を集めるべきという民主主義の観点から私は間違いだと思います。上記のように公認候補を選別する事は政党としては私は当然のことと思いますが、元首相、バックに何十万票以上も投票された人に対しては失礼だと考える人も多いと思います。そうすると投票する人も減ることもあるでしょう。尊大で余計な一言です。せめて「政策が一致した人を公認候補とする」というべきでした。こういったやや尊大と思われる発言（性格？）が有権者の投票行動に影響を与え、今後ポディーブローのように効いてくるような気がします。

2番目というよりは根本的な事ですが、基本的には安保の考え方等でいわゆる保守的な政策をお持ちなのだろうとは思いますが、その他の問題、例えば、税金（消費税アップは反対と言っていますが、じゃあその代わりに何で税収を図るのか）、教育（全て無償化とするのか？）、農業、統治機構、福祉（とセーフティーネット）、天皇制、日米以外の外交、等については何か具体的に述べているでしょうか。今までの最大野党よりも政策的には何となく現実的で、“反日的ではない”という事で今はふんわりと支持されていますが、私は、最終的な政治的な信念が強固でないように思えます。今回は期待で勝つかも知れません。しかし、現状を基本的には是認するのならば、日本人の考えを長期間に渡って吸い上げ、政策を切磋琢磨してきた自民党の底力には勝てないと思っています。もしこれに対抗できるとしたら、橋下徹さんのような革命的な統治機構の（昔で言えばクーデター的な）転換等を目指す勢力だと思います。（戦前のような盲目的な国に対してというよりも国民に対して）愛国的で、平等なスタート、公平な競争、十分なセーフティーネットを目指す勢力が出てこなくては日本の将来は希望に満ちたものにはなりません。”希望の党”には今のところそういったものを感じられず、このままではいずれ自民党的なものに吸収されていくのではとも思います。